

佳作

五人家族になつて

岡山県 総社市立総社中央小学校五年 小坂 亮太

五月二十八日午後四時四十四分、僕にとって二人の弟が生まれました。名前は奏太です。元気な産声を聞いて、僕はほっとしました。

奏太が生まれる二か月前、お母さんのお腹はすでにパンパンにふくれ、今にも生まれそうでした。生まれる一か月前になると、お腹がボコボコ動いているのがはつきりとわかるようになりました。これは手かな、足かな、と、お腹の中の奏太を想像しながら、お腹に手を当てて奏太に話しかけていると、ますます奏太と会うのが楽しみになってきました。

出産予定日前日の五月二十八日早朝、「じん痛が始まったから病院に行くよ。」

というお母さんの声で、パッと目が覚めました。その日はちょうど運動会の代休で学校が休みだったので、この日に生まれてきてくれたらうれしいな、とお腹

の中の奏太に言い聞かせていた日でした。僕は、もうすぐ会えるうれしさと緊張でドキドキしながら、あわてて病院に行く準備をしました。

病院に着いて数時間たつと、お母さんのじん痛は強まって痛そうでした。午後四時三十分になると、そろそろ生まれそう、と助産師さんが教えてくれて、僕も出産に立ち会うために分べん室に入りました。お母さんの顔は赤くなり、少し声を上げていました。僕は、弟の悠太と一緒にお母さんの手をにぎってはげました。お母さんは、うれしそうに笑って、

「ありがとう。」

と言いました。いつの間にか、僕もお母さんに合わせて、息を吸ったりとめたりはいたりしていました。いつもふざけているお父さんも、汗びっしりになって見守っていました。何度か息を吸ったりはいたりしていると、

「オンギャー」

と高い声で奏太が泣きました。奏太を見た瞬間、お母さんが、

「亮太、悠太と一緒に顔！」

と言って笑いました。奏太の近くに行くと、なぜか なつかしいにおいがしました。抱っこすると、小さ

くてふにやふにやしていました。かわいくて、ぎゅっと抱きしめました。

今、奏太は二か月になりました。自分一人では何もできずに泣いてばかりいます。でも、僕が抱っこすると、ニコッと笑ってくれて、とてもいやされず。

お父さんとお母さんは、けんかが絶えない僕と悠太の間にハーモニーを奏でてほしい、という願いをこめて、奏太と名付けたそうです。奏太はまだ頼りないので、家族に助けてもらわなければ元気に大きくなるできません。奏太を家族で協力してお世話することで、家族の絆がより深まったと感じています。奏太の名前の通り、これから五人家族として、ますます仲良く調和していきたいと思えます。